

監修者・著者プロフィール

〔執筆〕

田村暢一朗 (Tamura Nobuichiro)

倉敷中央病院 救急科 外傷/急性期外科チーム

・略歴：

2006年 鹿児島大学医学部卒業
2006年 川崎医科大学附属病院 初期研修医
2008年 倉敷中央病院 外科 後期研修医
2011年 川崎医科大学附属病院 救急科 後期研修医
2013年 倉敷中央病院 救急科
2018年 Khon Kaen hospital trauma center Visiting Doctor (タイ)
2019年 倉敷中央病院 救急科

・最近のはまりごと：

①QOL：急性期は受傷から生活復帰までのごくごく短期間でしかないことに気づきました。転院/自宅退院後、受傷前の社会役割をできるだけ維持した生活復帰のためには地域でできることを模索中です。
②乗馬：大学で馬術部に所属していました。「愛情をかけば成長する」「力んでも物事はうまくいかない」「自分はこれがしたい、の前に相手はどうしたいのか?」「緊張は悪」馬はいろいろなことを教えてくれます。

・最後に：

いつでも見学可能です。ご興味ありましたら、ぜひ一度 https://www.kchnet.or.jp/kchnet/wp-content/uploads/departments/pdf_acute-care-surgery-team.pdfにアクセスしてみてください。



笹口桂佑 (Sasaguchi Keisuke)

倉敷中央病院 救急科 外傷/急性期外科チーム

・略歴：

2011年 群馬県立高崎高等学校卒業
2018年 宮崎大学医学部卒業
2018年 倉敷中央病院 初期研修医
2020年 倉敷中央病院 外科 後期研修医
2023年 倉敷中央病院 救急科

・趣味：

①囲碁：囲碁歴25年くらいです(ヒカルの碁を見てはじめました)。全体の流れ(大局観)、その場の最善手を考えることが外傷診療に似ておもしろいと思っています。
②格闘技観戦：ボクシング、キックボクシング、MMAなんでも好きです。どこかでリングドクターやってみたいです。
③LEGO：直近で熱中しています。子どものために買ったら、私がハマりました。毎日、子どもと一緒にやるのが楽しみです。

・最後に：

外科医としてもう少し社会に貢献したいと思います。

[監修]

内野隼材 (Uchino Hayaki)

McGill University

・学歴：

2003年3月 岡山大学（岡山県）医学部医学科（MD）卒業
2019年4月 University of KwaZulu-Natal（南アフリカ）大学院 修士課程（MMedSc）卒業
2025年5月 McGill University（カナダ）大学院 博士課程（PhD）卒業

・職歴：

2003年5月～2005年3月 市立札幌病院（北海道）初期臨床研修医（初期臨床研修プログラム）
2005年6月～2008年3月 倉敷中央病院（岡山県）後期臨床研修医（外科専門医研修プログラム）
2008年4月～2009年5月 大阪府立泉州救命救急センター（大阪府）医員
2009年6月～2011年6月 兵庫県災害医療センター（兵庫県）医員
2011年6月～2012年5月 Inkosi Albert Luthuli Central Hospital/Edendale Hospital（南アフリカ）外傷外科・外傷集中治療フェロー
2012年6月～2020年12月 倉敷中央病院（岡山県）外傷急性期外科・外科集中治療 チーム長
2021年1月～2021年12月 Montreal General Hospital（カナダ）外傷外科フェロー

・ひとこと：

田村暢一朗先生とは、倉敷中央病院時代にともに外傷/急性期外科チームを立ち上げ、院内に外傷診療システムを導入しました。先生とは「同志」としてともに働き、多くの面で助けられました。このたび、そんな先生から本書の監修を依頼され、喜んで参加させていただきました。一般的な教科書とは異なるアプローチで、興味深い内容に仕上がってます。読者の皆様にとって、外傷に興味をもつきっかけとなり、外傷をより深く理解する一助となり、さらには日々の外傷診療に役立つものであれば、大変嬉しく思います。